

成果の説明書

(氏名)内山 知一	(学部)経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>前期開始時点で、感染症の広がり深刻になり、教員免許取得のための課程プログラムも影響を受け、さまざまな善後策の策定に携わった。まず、当該免許プログラム上の担当授業では、その特質上、これまで、限られた時間で、現場で必須の種々のスキルを獲得させるために効率のよいやり方を心がけてきたが、感染症防止でオンラインを使う特殊な環境で、それらが難しくなり、できるだけ習得に支障をきたさないよう準備を重ねた。たとえば、模擬授業は、同種の経験が少ない受講生には不可欠なものだが、制約がある状況では、有効に経験させることが非常に難しく、可能な範囲で近い効果が得られるよう取り組ませた。また、実習では、地域ごとの感染者数などの深刻度の違いで、各校の受け入れ状況・条件が異なり、前半に予定されていた開始時期のほぼすべてが延期されるなど変更が相次ぎ、事前・事後の準備・振り返りも含め、円滑になされるよう修正をはかった。それ以外にも、健康記録の提出や感染リスク低減のための心がまえの再確認などで派遣先の懸念に応え、無事に受け入れがなされるよう配慮に努めた。加えて、各種ガイダンスも、感染症防止の措置に加え、新たな注意事項の伝達漏れがないよう留意しながら開催し、個別でも、免許取得のためのスケジュール上の注意や校種の選択などの相談にのった。その他、免許プログラムの修正・維持や担当となった各種委員の仕事にも従事し、取り組むことができた。さらに、授業面では、上記の担当以外も含め、前期開講のすべてがオンラインになるなど、これまでにないやり方が求められたが、事前に準備し臨んだ。</p> <p>次に、研究面では、感染症が想定以上に急速に広がる状況下で種々の制約が生じ、それに付随し、事前の計画も影響を受け、修正をはかった。また、これまでの土台の上で、発問と授業形態のかかわりなどを、それらの変遷やいくつかの新しい事例も踏まえ、さまざまな観点で把握し、検討を深めることができた。引き続き、このテーマの下、吟味を重ね、さらに意義あるものとなるよう、取り組みをすすめていく。</p>	
<p>2 その他の事項</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>これまで、感染症が広がる前例のない状況下で、免許プログラムなどにかかわる種々のガイダンスの開催やプログラムの修正・維持などで、受講者間の確認事項の共有や免許取得の支援、善後策の策定に貢献できた。先の予測が難しい現状だが、以後も、状況に注意しつつ、さまざまな変更に応じられるよう心がけたい。また、授業面も、感染症が克服されるまでのしばらくの間は、従来の形態を原則としつつ、それ以外の選択肢も含めて可能かどうか検討にあたるなど、前もって備えておく。特に、模擬授業などでは、感染症防止とのバランスをとりながら、求められている最低限度以上の有益な経験が得られるようやり方を熟慮し、受講生にも早めの準備を促す。研究面では、これまでの取り組み・課題も念頭に、過去の事例・記録や現在の現場の状況も踏まえ、テーマをさらに検討し、深めていきたい。</p>	